

平成27年度 第2回昭和町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成27年7月9日(木)
開会 午後3時00分 閉会 午後4時20分

2 会 場 昭和町役場 別棟会議室

3 出席者 町長 角野 幹男
副町長 志村 武夫
教育長 佐野 勝彦
教育委員長 清水 正夫
教育委員 太田 學
教育委員 山田 由美
教育委員 磯部 幸廣

(事務局関係)

総務課長	内藤 芳男
総務課政策秘書係長	今村 圭一
総務課総務係長	三井 浩樹
教育指導監	柴 茂生
教育委員会学校教育課長	保坂 正造
教育委員会生涯学習課長	篠原 正浩
教育委員会学校教育課学校教育係長	今村 秀紀

4 協議事項 (1) 昭和町教育方針の確認について
(2) いじめ防止に係るアンケート報告について
(3) 教育に関する話題について
(4) その他

別紙（議事詳細）

1 はじめの言葉（内藤総務課長）

2 町長あいさつ（角野町長）

※あいさつ内容は省略

3 議事

（1）昭和町教育方針の確認について

佐野教育長より、昭和町教育方針の確認について説明を行った。

（質疑・意見交換）

（磯部委員）

平成30年度に学校施設の充実を重点項目としているが、それまでは何を
をするのか。

（佐野教育長）

学校のバリアフリー化等については、平成16・18年度で改修は終了
し、現在も雨漏り等小規模な修繕は学校単位で行っているが、あと4・5
年経つと大規模な改修が必要になってくると考えている。特に常永小学校
につきましては、児童の増加により6年生まで3クラスとなり、学校施設
の大規模な改修が必要になってくるので平成30年度に学校施設の充実を
重点目標としている。

（山田委員）

押原小学校は空き教室があるが、常永小学校と押原中学校は児童・生徒
の増加により教室が足りないと聞いている。特に学校に来ることはできる
が教室に入ることができない子ども達の教室が足りないと聞いているがど
うか。

（内藤総務課長）

地域差もあるが、常永地区においては区画整理事業を行い人口が増加し、
教室が足りないという問題が出てきている。押原小学校については、平成
28年度から調整区域の開発等を進める中で世帯数や子どもの数が増えて
くると考えられます。

(志村副町長)

昭和町全体で人口が増えていますが、特に常永地区の増加が著しいが、将来的には人口は減っていくと考えられる。当面の対応としては、教室が足りなくなった場合、特別教室等をプレハブで対応したいと思っている。何年後に教室が足りなくなるかということは、教育委員会で児童・生徒数の増減等を把握していますので、2年ないし3年くらいの中で増減の把握ができた時点で財政状況を検討し、計画していきたいと考えている。

(清水委員長)

町にはスポーツ・文化部門の優秀な人材がたくさんいると思う。あと子ども達に学力がしっかりつけば結果が出てくると思う。スポーツ・文化・学力の3つが揃えば素晴らしい人間になってくれると思います。今年の成人式の冊子の中の一言という欄にほとんどの人が「昭和町に戻ってくる」「昭和町が一番好き」と昭和町をけなす子はいなかった。昭和町を愛している子がほとんどだろうと思う。皆様に頑張ってもらった結果だと思う。また、町内外から昭和町は住みやすい町だという話を聞く。そういういいところを残して、財政的にも厳しくなっていると思いますが、これからも手厚い援助をお願いしたい。

(太田委員)

私が昭和町に長く勤務する中で、町長、副町長と話をする機会がなかった。町長が考えている教育行政について直接聞けるので、会議では本音を言ういい機会だと思う。

子どもの貧困とは多くの場合は経済的な問題だと思うが、私の考える本当の貧困とは勉強が分からないことだと思います。そういう子ども達がやがて昭和町を巣立っていくときに、行財政の補助、給食費の補助も必要ですが、昭和教育の根幹は子どもの貧困の除去だと思います。これに私たちは立ち向かっていかなければならないと思いますし、お金で解決するのでなく、私も具体的な方策は考えつかないですけど、先ほど清水委員長言ったように「昭和町に戻ってくる」と書いた子はともすると学力の優秀な子だけで、私たちもそうゆう意識になってしまうが、でも勉強が苦手、自分の希望する学校に行けなくても昭和町で教育を受けたことがその次の生徒のエネルギーになることを考えたら、昭和町で教育を受けてよかったという方策を考えていくことも昭和教育の視点だと思う。

(内藤総務課長)

ありがとうございました。まず第1の議案として昭和町教育方針の確認という意味で皆様に説明をさせていただきました。それぞれ意見をいただく中で話を進めさせていただきまして、委員の皆様に昭和町教育方針についてご理解していただいたということで、今後、昭和町教育方針イコール大綱ということでまとめさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(2) いじめ防止に係るアンケート報告について

佐野教育長より、いじめ防止に係るアンケートについて報告を行った。質疑等については「(3) 教育に関する話題について」でお願いしたい。

(3) 教育に関する話題について

(質疑・意見交換)

(佐野教育長)

山田委員は保護者代表ということですので、私が逆にお聞きしてもよろしいでしょうか。栄養教諭の先生が2名変わって、新しい体制で給食が始まっているが、給食1食分の単価10円上がっているようなかたちで給食を提供しています。子ども達の声を保護者として聞かせていただきたい。

(山田委員)

中学生と小学生の子どもがいますけど、ボリュームが増えてとてもおいしくいただいています。

給食費の滞納についてなかなか払っていただけない保護者もいるということなので、来年度から値上げを考えているということなので、何人かの保護者に話を聞いたところ、町外の学校の給食費は意外と高く、昭和町は給食費の補助を行っているから安いということ教えてあげるとびっくりする。給食費の金額を考えるととても量や栄養の事も考えていただいているのでありがたい。給食費が値上がりするのはそれほど問題ではないと思うが、保護者の皆さんは町で補助を行っていることを意外と知らないのでもっとアピールしたほうがいいと思います。

(内藤総務課長)

給食費、また学校教材等の問題について、今言われたとおり町民や保護者の皆様に昭和町が他市町村と比べてどのくらい補助を行っているか知らないケースが多く、それが当然と思われるので周知を行うこと、また

財政状況や受益者負担の考え方等を説明しながら対応してことを検討しています。

(山田委員)

給食費に関してアンケートをとる事は可能ですか。

(佐野教育長)

可能ですが、アンケートの内容は難しいと思います。

(太田委員)

給食費という言葉が非常にあいまいなので給食費の値上げといっても実際は食材費の値上げなので問題ないと思う。給食に係るお金は食材費、人件費、光熱水費等がかかっている、給食費と言っているが実際は食材費しかもらっていないから安い。食材の金額が上がっているので給食を値上げするという事で根拠が明確なので問題ない。

(内藤総務課長)

ありがとうございました。この問題については、今後、関係機関と協議し、アンケートを取るのか検討していきたいと思います。

(太田委員)

昭和町はいいと言っているが、漠然としている。給食費や修学旅行代、教科書など公益負担をしているものは保護者に理解してもらいたい。

(山田委員)

担任の先生によっては、学級懇談会の場で町がこれだけ負担してくれているんですよと保護者に言ってくれる。

(清水委員長)

給食費などの受益者負担金について、他の市町村と比べて極端に高くなければ保護者も何も言わないと思う。少し前に人間ドックが1万円の個人負担でできたけれども、そのとき申し込んだら希望者が多くできなかったことがあった。受益者負担金を上げてもいいから人間ドックを受診させてほしいとそのとき思った。おいしい給食が食べることができて10円の値上げくらいだったら保護者も何も言わない気がします。そんなに心配しなくてもいいと思います。

(太田委員)

教材費など個人で使うものや必要なものについては、教育委員会や学校で検証して見直しをしてもいいと思います。

(山田委員)

押原小学校には空き教室があるということなので、常永小学校に通学している子で押原小学校に近い子は押原小学校に通学するという事はできるのか。

(太田委員)

学校区の見直しを行えば可能だが、すぐに行くことは困難だと思う。ただし、将来的には考えないといけない時が来るのかもしれないと思います。

(志村副町長)

学校区の問題はいろいろ難しい問題があつて、築地新居区の子どもが押原小学校に通学していますが、経緯としては子どもクラブの活動が西条地区・押原地区・常永地区で行っていたということがあります。学校区を変更すると兄弟がいた場合など学校が兄弟で違ってしまうなどの問題も生じてしまいます。

(太田委員)

スポーツ少年団は社会教育・生涯学習、普段は学校で学校教育でスポーツ少年団が衰退の方向にあると聞いたんですけど、私が担任をしていた時にスポーツ少年団の賞状の授与は社会教育だから学校ではしなかった。行政の区割りではなくて、子ども達が努力した結果なので賞状の授与を行ってもいいと思います。そうすれば少しでもスポーツ少年団に入団する子ども増えるのではないかと思います。

(佐野教育長)

スポーツ少年団に入団する子どもが減少してきているのは、スポーツ少年団の活動自体に保護者の抵抗があるような気がします。私の考えですが、スポーツ少年団に入団するといろいろすることがあつて面倒くさいとか先輩の親から伝わってきていると思う。子どもが入団したいと言っても親が止めてしまうこともあると思う。今はスポーツ少年団からクラブチームに移行してきている。社会教育で行っていたものではなくて、もっと総合的な活動になってきています。総合的なスポーツをおこなっているキャメリ

アについて、もっとこれから考えていかなければならないと感じています。せつかく町に総合的なスポーツクラブがあるのだから、いろいろなスポーツを行うことができるようになれば、カメラリア自体の収入も増えてきますので、運営も楽になるのではと思います。スポーツ少年団の話と少しは離れますが関係してくるのではないかと思います。これから生涯学習の方でも考えていきたいと思います。

学校教育だから表彰をしないというのは今までやってきたから途中で変えるのはなかなか難しい。途中で変えると今までは何だったということになるので学校でも難しいと思いますので相談をさせていただきたいと思います。

(内藤総務課長)

各スポーツ少年団が大会で優勝した場合は町長に報告きています。それに対して表彰をすることは町ではありません。町議会議員から子どもに対して表彰をする条例を制定したらどうかという意見もありました。今後、皆様の意見を参考に検討していきたいと思います。

(磯部委員)

子どもの貧困の問題に対して、何か対策はおこなっているのか。

(佐野教育長)

子どもの貧困の問題で学校は何ができるかという問題が出てくる。学校というのは子どもの貧困に対しては、学校はプラットホームだといういい方を言う。例えば、お金がない子どもに対して制度を紹介したり、家庭に問題がある子どもは児童相談所を紹介したりするなど、学校を利用しているいろいろなところへ行けるような形をつくるのが学校のできることだと言われている。学力のことについては、学力の保障というのは貧困問題の中で学校のできることの一番重要なポイントと言われている。学力をつけることによって、いろいろなところに出て行った場合に耐えられるような子ども達になってもらい、自分の親を見たときに働かない親だった場合、それを真似するのではなく、違った見方で社会に出て行けるようになっていく。そういう面で子ども達に最低限つけなくてはいけないのは学力だと言われている。学力フォローアップを行い、今年の夏休みは子ども達に学習をする場を与える。また学生ボランティアをお願いし、放課後に面倒を見てもらったり、授業中にきめ細かな指導をしていくなど取り組んでいるが、結果としてはすぐには出てこないで大変申し訳ないですけれども努力は

していますのでご理解をいただきたい。

(太田委員)

難しいことですが、子どもの貧困の問題は昭和教育の最も根幹なので子ども達の気持ちを理解するところが大事だと思います。

(4) その他

特になし。

4 終わりの言葉 (内藤総務課長)